

留学報告書

ニューヨーク州立大学バッファロー校 コンピューターサイエンス専攻

1. 留学を決めた理由

私は現在、ニューヨーク州立大学バッファロー校でコンピューターサイエンスを専攻しています。

留学を決意した理由は、アメリカのCS（Computer Science）学位が将来の可能性を大きく広げてくれると感じたからです。また、挑戦的な環境に身を置くことで、自分をより成長させたいと考えました。

2. 授業について

授業は大きく分けて三つの形式があります。

1. Lecture（講義）：理論の説明を中心に行う大人数授業
2. Recitation（リサイテーション）：グループワークを通して理解を深める授業
3. Laboratory（実習）：講義内容を実際に自分の手で進める実践的な授業

どの形式でも発言の機会が多く、たとえ自分の意見が完全でなくても、その時点での考えを積極的に共有することが求められます。何も発言しないと、授業に集中していないとみなされることもあるため、「聞くだけでなく、自分の意見を持つこと」が常に期待されています。

課題の提出はすべてオンラインで行われ、教科書も多くが電子版です。数学のように紙のほうが扱いやすい場合は、自分で印刷して使います。オンライン管理により課題の締切や成績の確認も容易で、慣れると非常に効率的です。

3. キャンパスについて

大学はいくつかのキャンパスに分かれており、私は主に中心となるNorth Campusを利用しています。

キャンパス間は無料バスで移動できますが、片道30分ほどかかるため、普段はNorth Campus内で過ごしています。

キャンパスは広大で、当初は徒歩で移動していましたが、途中からスケートボードを利用するようになりました。多くの学生が自転車や電動キックボードなど、それぞれの移動手段を持っています。

自習スペースは図書館・カフェテリア・ラウンジなど至る所にあり、勉強場所には困りません。さらに、二階建てのジムやEsportsルーム、プレイルーム（卓球台やサッカーゲーム完備）な

どもあり、学外に出なくても充実した生活を送ることができます。

4. 文化の違いについて

この大学には多くの留学生が在籍しており、キャンパスにはさまざまな文化が共存しています。授業や日常生活を通じて、それぞれの学生が自国の考え方や習慣を大切にしていると感じます。そのため、「アメリカ文化一色」というより、多文化的な雰囲気には満ちています。

英語が母語でない学生も多く、お互いの母国語について話すこともあります。挨拶や簡単な表現を教え合ううちに、異文化理解が自然と深まりました。

5. 課外活動について

大学生活では授業だけでなく、課外活動やセミナーも大きな役割を果たしています。これらに参加することで、協働力・リーダーシップ・コミュニケーション能力を磨くことができます。

キャンパスでは定期的にキャリアセミナーやクラブフェアが開催され、多くのブースが並びます。興味のある分野の担当者と直接話すことで、具体的な情報やアドバイスを得られます。こうした実践的な交流は、新しい視点や人とのつながりを広げる貴重な機会です。

私自身は、マーチングバンドでサックスを演奏する活動や、セミナーでの情報収集を通じて、協力の大切さや主体性の重要性を学びました。共通の目標に向かって努力する中で、多くの友人と信頼関係を築けたことは、何よりの財産です。

6. まとめ

留学生活は、語学力や専門知識の向上だけでなく、人としての成長を促す貴重な経験です。文化や価値観の異なる人々と共に学ぶことで、自分の考え方が広がり、将来に対する視野も大きく変わりました。

この経験を通じて得た学びと人とのつながりを大切にし、今後の人生に活かしていきたいと思っています。